

イエス様に救われ、導かれ、守られて、わたしたちは今日まで過ごしてきました。今日、私たちは神様を礼拝するために集っています。

世界を創造されたのも、命を創造されたのも、神様のみ心です。わたしたちは、被造物として、少しだけ、与えられた命の目的を知ることが出来ます。でも、創造主にはなれないので、全てがどう関係しあっているのか、何が全ての目的なのかを完全に知ることはできないでしょう。神様はわたしたちに寄り添ってくださいますが、私たちが神様を完全に知ることはないでしょう。

ノアの箱舟の物語に私たちは何を聴くのでしょうか。正しく、神様を信じていた、忠実なノアに、神様から、箱舟を作るようにと示されました。具体的な高さ、広さ、幅、奥行きなど、精密な設計図が渡されたのです。そして、ノアは箱舟をつくりました。ノアは、神様を信じ、日々の歩みを、神様の教えてくださった、そして親から教えられた通りに歩んできました。しかし、周りの人々はそうでもなかったようです。その中で、ノアは、周りの人に合わせるのではなく、信じてきた神様に、忠実でした。

神様から箱舟を作りなさいと語りかけられ、具体的な設計図を示されたノアは、神様に忠実に従い、すぐに作り始めました。意味も分からず、目的もわかりません。でも、ノアにとって今まで信頼してきた、神様からの指示なので、今までと同じように忠実に従い、ただ、黙々と作ったのでしょう。途中、まわりの人々からは、聞かれたり、いろいろ言われていたのかもしれませんが。それでも、ノアにとって船を作ることは、それまで、神様を信じて従ってきたことと、何も変わることなく、ごく自然なことでした。

次第に巨大な箱舟が出来上がっていくにつれて、周りの人々は騒いだかもしれませんが。この大きさは何のためなのか。どうして、船なのか。問われても、ノアはただ忠実に神様にしたがっていただけなので、自分の知らされていることしか、答えられなかったでしょう。何を作っているのか。箱舟を作っている。なんのために作っているのか。神様がそうせよと言われたので、そうしている。そうして箱舟が完成すると、神様はさらに指示を出されました。ノアは指示に従い、全ての生き物をつがいで箱舟に入れました。これも、なぜそうするのか、はノアにはわかりません。ただ、言われたように、忠実に信じている神様に従ったのです。全ての生き物が箱舟に乗せられた後、神様は、ノアとその家族に箱舟に乗るように指示されました。箱舟の最後の扉は外から閉じられるものだったようです。

ノアは、それまで通り、言われた通りに、家族と一緒に箱舟に乗り、神様が扉を閉められました。その後、世界は、皆様のご存じの大雨と洪水となっていきました。箱舟の中で、ノアと家族、そして生き物たちは、大雨と洪水を生き延びました。雨からも、洪水からも、周りの世界の全てのものから、遮断され、閉じ込められた日々でした。この時期もまた、以前と同じように、見通しも立たず、導かれるままでした。箱舟の中では、ノアの今までの道、ただ一つのこと、忠実に神様を信じて従うことのみが出来ることでした。

洪水の水が引き地上に降り立った時、ノアは自分から初めて動きました。神様から指示されたのではなく、自分から、信仰を明らかにし、神様へ礼拝を献げたのです。自分たちの力では計り知れない、大きな出来事が起きたこと、そして、頼れたのは神様だけであったこと。これからも、神様に導かれて、歩いていくことを自覚して、ノアは礼拝をお献げしました。神様は、その礼拝を喜ばれました。そして、もう水の災害によって世界を滅ぼすことはない、命を生かす、と、虹の契約を結ばれました。

巨大な箱舟のこと、つがいの生き物のこと、大洪水から生き残ったこと、虹の契約。ノアはいろいろな意味で有名です。聖書を知らない人にも、ノアの箱舟の物語は知られています。でも、聖書に記録されたノアの物語の中心は、ある人が神様を信じ、従い、そして礼拝を献げたということでした。

そして、この人の物語は、それから今に至るまで続いているのです。人は神様を信じ、従い、礼拝をお献げするのです。信じて精一杯従い歩み、神様を礼拝して、神様から喜ばれ、祝福を受けるのです。わたしたちは、救い主を知らされました。そして、贖われ、信じる恵みにあずかり、神様のみ心に聴き、日々従うものです。心から礼拝を献げることができるようです。神様から愛され、一方的に救われて、ただ喜びつつ、神様の祝福を受けて歩むことが約束されているのです。心を尽くして、共に礼拝を献げてまいりましょう。

[祈祷]

天の神様。主よ、私たちをお導きください。私たちが日々、主に信頼して、あゆむことが出来ますように。救い主、イエスキリストのみ名によって祈ります。アーメン。